



Empowered JAPAN 緊急ウェブセミナー

Empowered JAPAN 実行委員会はテレワークをはじめとする働き方改革や学び直しを通じた「いつでもどこでも誰でも、働き、学べる世の中へ」をコンセプトに、2018年に発足しました。東京圏および地方都市におけるテレワーク啓蒙イベントをはじめ、多くの自治体や協力会社と共に企業・個人向けテレワーク研修を実施してきました。この度のコロナウイルス感染拡大と2020年2月25日の政府基本方針に含まれた「テレワーク推奨」の呼びかけを受け、全国の組織や個人がテレワークを早期に実施するため、実践的な情報をお伝えするための緊急ウェブセミナーを2020年3月17日より連続的に無料開催しています。

カテゴリ：

IT ツール、環境

開催日時：2020年3月28日

講師：

コミュニクラウド ジャパン株式会社
代表取締役 福田 剛士氏



福岡県福岡市出身。外資系 IT 企業にて営業およびマーケティングの経験を経て、2006年に英通信大手 BT の日本法人 BT ジャパンに入社。コンファレンシング事業部の責任者として、主にグローバル企業向け遠隔会議サービスの導入や支援に携わる。2015年豪 CommuniCloud の日本法人 コミュニクラウド ジャパンを設立。各種遠隔会議サービスの取扱いだけでなく、様々な企業のイベントやセミナーのウェブ配信をサポートしている。

イベント自粛要請を踏まえた

オンライン型イベント切り替え講座

3密を避けることが強く要請されている昨今、大人数を集めてのイベントは自粛が求められています。そこで注目されているのがオンライン型のイベントです。様々な企業のイベントやセミナーのライブ配信をサポートしてきた福田氏は、最近のライブイベントには変化が見られると指摘します。

「資料の左は、ある企業の社長就任イベントの写真です。会場には約200人の参加者がいて、地方在住の人などに向けて配信しました。以前のライブイベントはこれが主流でした。最近の写真は右です。会議室にいるのは講演者と撮影スタッフのみ。新型コロナウイルス感染拡大対策もあり、会場は無観客でのライブイベントが急速に増えています」



まずは「ライブイベント」の定義から。「オンデマンド」と「WEB会議」と比較するとわかりやすいと福田氏は説明します。「オンデマンドは蓄えられた映像などを選んで視聴できるもので、トレーニング用などによく使われます。それに対してライブイベントは生中継・臨場感・双方向が特徴。リアルタイムに配信されているので視聴者は集中力を高めることができます」

WEB会議は意見交換や意思決定を目的としており、例えば Teams 会議の画面には様々な機能が備わっています。「リアルな会議室の機能をなるべく再現する」(福田氏)ためです。一方の Teams ライブイベントはいたってシンプルな画面。質問など以外は講演者の一方通行で情報を「伝える」「見せる」ことが主目的だからです。

Empowered JAPAN 実行委員会 緊急ウェブセミナー 講演レポート

では、ライブイベントをやってみましょう。福田氏は「心構え」から説きます。「100%（の完成度）に近づけるようにがんばるけれど100%は求めない。この心構えが必要です。TV局だって生放送では小さなミスがあったりするでしょう。粗さが臨場感を与えることもあるです」

心構えの次に、ライブイベント成功の3つの秘訣を福田氏は伝授しました。1つ目は、「準備が8割で本番は2割」。リアルイベントとは違い、オンラインのイベントは本番中に臨機応変にやれることはほとんどありません。できるだけ準備しておくことが必要です。

2つ目はネット回線。少なくとも上り5Mbps以上、できれば20Mbps以上を確保しましょう。LAN接続が基本です。

「WiFiはおすすめできません。以前、ポケットWiFiがつながらなくなってイベントが中断し、冷や汗をかいた経験があります」（福田氏）

そして、3つ目。視聴者を忘れないこと。接続方法や質問方法などの丁寧に説明し、できれば視聴練習のイベントを事前に開催しましょう。

秘訣を伝授されたいよいよ実行です。ライブイベント全体の流れを6つのステップに分けて順にこなしていきます。

①内容と目的：誰が、誰に、どこから、何を、何のために伝えるのかを確認します。

「例えば、社長と司会者がいるのであれば自在に動かせるカメラが必要です。目的が社員の一体感を醸成するためならQ&A機能を付けたほうが良いでしょう。このステップを踏むと、必要な準備がおのずと決まります」（福田氏）

②日時の決定：講演者のスケジュールを押さえて、機材を揃える日程を把握し、リハーサルの日程も確保します。

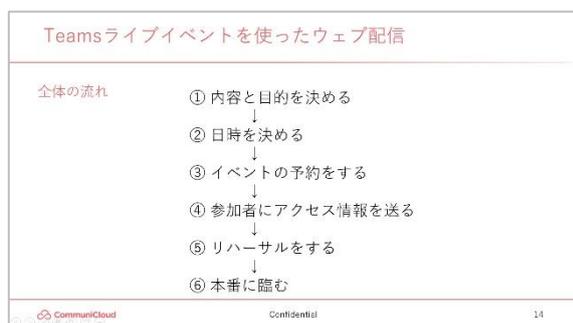
③予約：Teamsライブイベントであればわずか3分間の操作で簡単に予約できます。これで最大1万人収容のイベントホールを予約できたのと同じです。

④参加者にアクセス情報を送る：接続方法や注意事項はEmpowered JAPANの特設サイトにわかりやすい記載があります。コピー＆ペーストをして参加者に伝えましょう。

⑤リハーサルをする：本番と同じようにイベント予約をして、別の端末から視聴者として接続し映像や音声をチェックします。機材やネット回線などの環境を本番とできるだけ同じにするのが基本です。

「講演者が2人以上の場合、PCのカメラではなく、ホームビデオカメラを使いましょう。PCに接続するにはHDMI・USB変換アダプターが必要です。カメラはHDMI出力ができて、液晶画面の文字がPC画面には出ないものを選んでください。雑音を拾いやすいPC内蔵マイクもおすすめしません。会議室用スピーカーフォンやUSB接続マイクを揃えましょう」（福田氏）

⑥本番：2時間ほど前から準備を始め、30分前にはスタンバイが完了しておくといいでしょう。福田氏によれば、この余裕が機材トラブルなどの際に役立ちます。



実際にライブイベントをやってみると様々な反省点が見つかるはずですが、次のイベントに活かせばいいのです。ありがちな反省点としてはズームも含めてカメラを急に動かし過ぎて、視聴者を酔わせてしまうこと。生放送は編集できないことを念頭においてください。

「カメラ操作は思っている以上にゆっくりと、が基本です。講演者が複数いて、1台のカメラで撮影するであれば、ゆっくり引いて全体の映像を挟んだ後で、次の対象にゆっくりフォーカスしてください」（福田氏）

福田氏によれば、企業におけるライブイベントは決算報告会や会社説明会、プレスリリースなど様々な用途に広がっています。また、在宅ワーク中の社長が同じく在宅している全社員に向けてメッセージを発信する、などの使い方もできます。一人でも毎日配信することも可能です。まずは一度、ライブイベントをやってみましょう。

なお、Teamsライブイベントの画面操作については、日本マイクロソフトが作成した4部作の教材動画があります。どなたでもYoutubeで視聴できるのでぜひ活用ください。